

半世紀で三分の一にまで減少した人口、そして高齢化。田も畑も、山も荒れ、伸び放題の竹藪が覆いかぶさる暗い道。わずかに耕した畑も猪に荒らされ、無残な光景にため息すらも出ない年寄り。

「日に日に活気を失っていくふるさとを守らなければ」。強い決意とともにNPO法人能島の里が設立されてから七年が経ちました。この間、私たちが目指してきたのは若者が安心して暮らせる町づくりです。

過疎・高齢化の根本的な原因は、宮窪町が若者の生活できる町ではなくなってしまったことにあります。農業や漁業、そして石材業を中心とした宮窪町の産業構造は、時代の移り変わりとともにその基盤を



山羊の堆肥を収穫

特集2

町づくりの芽を育てる



NPO 法人能島の里 理事長 村上 安直

おびやかされつつあります。自らの生活を安定させ、次の世代を育まなければならぬ若者が、ふるさと宮窪町に残るのは難しい状況です。また、わずかに残った若者にとっても、活気を失いゆくふるさとをけっして居心地のよい場所だとはいえません。都会に飛び出す機会をうかがう半身の姿勢では、ふるさとの衰退を止めることはできません。若者が、経済的にも精神的にも自信を持ってこの町で生きるために足りないものは何か？

それが「私たち自身がふるさとの魅力に気づくこと」であると分かったとき、「潮流美術館構想」(<http://www.noshimanosato.org/>)が誕生しました。

私たちの町には、瀬戸内海の多島美があり、激しい潮流がある。村上水軍の勇壮な歴史がある。新鮮な魚介類に、ミカンや野菜もある。そして、最高級石材の大島石がある。あたり前に、いつも足もとに転がっていたものが、町の外の人びとの眼にはどれだけ輝いて映っているのか。人の心を揺り動かすもの、それをアートというのなら、宮窪町そのものが美術館といえるのではないか。私たちはそうに考えたのでした。

「潮流美術館構想」は、宮窪町の魅力を発見して産業として育成し、町の外へと積極的に発信する試みです。これまで、カレイ山を中心に、遠見茶屋の建設とシーフードカレーの開発、特産品を販売する市場の設



大渡島石の勉強会(千葉昇先生を招いて)



置や鯛の姿薫製の開発支援など、宮窪町の魅力を掘り起こすさまざまな事業を展開してきました。また、昨年度から石文化体験ツアーがはじまり、近いうちにインターネットによる特産品のオンラインショップ「しまとく市場」(<http://shimotoku.net>)が本格的な活動を開始します。

会の活動は、しまなみ海道の人気とともに大きな盛り上がりを見せ、カレイ山展望公園を訪れる観光客数は年々増加しています。しかし、私たちの目標は、宮窪町を若者が安心して暮らせる町にすることです。カレイ山での活動はその芽生えでしかありません。しかし、せっかく芽生えたこの貴重な芽を枯らすようなことがあってはいけないと思います。

現在のところ、私たちの会は、定年をむかえた高齢者が中心となつて活動を行っています。そのメンバーは、当町出身の県庁職員や当町出身者を妻にした大手の建設業者。地元では市役所職員や採石業者、農協職員、漁師、農家というように顔ぶれは実に多彩です。彼らひとりひとりが豊富な経験を持ち、宮窪町の魅力を肌で知っているため、会には必要不可欠な存在



鵜島33 観音の清掃

です。ただ残念なことに、定年組のメンバーは、長く町づくりの芽の成長を見守るということはできません。引き続き町づくりの芽を見守る若者という存在が必要なのです。もちろん、会の活動には若者たちも参加しています。定例活動の日にはかならずといつていいほど出席してくれまし、日頃から空いた時間にはカレイ山の清掃をし、会の活動には積極的に関わってくれています。しかし彼らは、労働や子育てなどのさまざまな理由から、活動に関わりたくても思うように参加できないという現状があります。(過疎の島で働く貴重な若者たちです。)

それでも、彼らはすくなく時間をやりくりして活動に参加してくれています。そのような厳しい条件の中、会の活動を通じて、年寄りと若者とで交流をかさねることが大事です。少しずつ宮窪町の大切なものを下の世代に伝えていきます。ありがたいことに国の制度で、今年度から「今治市地域おこし協力隊」が今治市の島諸部に派遣されてきました。宮窪町にも若者がやってきて、高齢者には苦手なネッ



石文化体験ツアーの準備

ト関係や事務、危険な場所の清掃等を常時手伝ってくれています。また、都市部からも当NPOの活動に協力してくれる若者などもいて、私たちの活動のたいへんな励みとなっています。

気がつく、NPO能島の里」は、老人と若者、町の内部と外部といったものをつなぎあわせる結び目としての役割を担うようになっていきました。それはまるで、町づくりの芽の成長を見守る者たちの集会所のごときです。この集会所は、より広く、愉快なものになっていくと思っています。

焦らず、騒がず、マイペースで町をつくる楽しさを味わいながら当NPOの活動は着実に会の目標に向かって近づいています。